

〔安西軍策〕^二赤穴合戰事

此外藝州佐藤○藤○假借○佐東郡ノ人々ハ、八重垣吉川治部少輔興經ハ、平原ニ陣ヲトラレケリ、

〔陰德太平記〕^四藝州西條鏡山城沒落事

渠○大内筑前ニ在陣ノ中、急ギ當城ヲ攻破、佐西郡ヘ打入ベシト、晝夜ヲ不分攻ラレケリ、

〔安西軍策〕^一佐藤銀山之城并櫻尾城沒落事

櫻尾ノ城ヘハ大内勢相向、嚴島ノ神主佐伯式部大輔興藤子息四郎ヲ大將トシテ、佐西郡ノ者共

五百餘騎楯籠リケルガ、若命ヤ助ルト、神主父子ヲ討テ出ス、

山縣郡 〔藝藩通志〕^{九十八}山縣郡 疆域形勢 風氣附

山縣郡は國の西北にありて、今の藩府廣島を去ること八里餘、もと山中の縣なるを以名づけられたるなるべし、既に縣といひ、また郡といへる、重複にわたれども、本朝中古國郡の名皆二字を蒙らしめられければ、如此なりたるにや、廣十三里餘、東は木次村より西は戸河内村に至る、表十里餘、南は坪野村より北は大塚村に至る、四隣東は高田郡、南は高宮沼田、佐伯の三郡、西北は石見の國なり、本地村を以郡本とす、○下

〔藝藩通志〕^{十八}藝國嚴島古文書言上 公家并建春門院御祈禱料、安藝國伊都伎島社御領壬生庄田

畠在家等事、

在管山方郡内○中略

嘉應三年正月

公文凡○下略

高宮郡 〔藝藩通志〕^{七十一}高宮郡 疆域形勢 風氣沿革附

高宮郡は藩府の東北四里許にあり、此地中古の安北郡にて、上古安藝郡の半に當れり、高宮郡の本地は、今高田郡の内にこもれり、○中今郡境廣四里七町、東は狩留家村より西は飯室村に至る、